

押小だより
てんしんらんまん

天真爛漫



令和5年11月30日
さくら市立押上小学校
令和5年度 第11号
文責：仁平 博幸

祝 さくら市小学校駅伝競走大会6年生連覇達成 あきらめない姿と全力、そして努力の姿に感動

11月29日（水）、令和5年度さくら市小学校駅伝競走大会が、さくらスタジアムで行われました。本校からは、5年生1チーム、6年生2チームがエントリーし、学校の代表として走りました。

そして、6年生が昨年度に引き続き優勝し、連覇を果たしました。本当におめでとう。

また、出場した6年生（もう一つのチーム）も5年生も仲間を信じてたすきをつなぎ、最後まで走り抜きました。その「あきらめない姿」と「全力の姿」に心が動きました。

これまで、子どもたちを支え、励ましてくださったご家族や地域の皆様など多くの方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。



校内持久走記録会（11月15日）を終え、この大会まで2週間、さまざまな準備・練習を行ってきました。

練習に入る前に、5・6年生全員を集め、駅伝とはどのような競技なのかを、教務主任から子どもたちに伝えました。

「練習は嘘つかない・練習は裏切らない・練習が全てであること」

「駅伝は次の走者が少しでも楽に・よい位置で走れるように・優勝できるようにと、たすきに思いや願いを込めて、1秒でもはやく仲間にたすきを渡すこと」

「駅伝とは、たすきをつなぐ競技だが、本当は心をつなぐ競技であること」

そして、「一人の1秒はチームの1秒」という昨年からのテーマを伝えました。

このような「心づくり」を行って、練習に入りました。



練習は、業間休みに行います。短い時間ですが、集合が早く、すぐに練習に入ることができました。練習は、走り込んで体力をつけることの他、たすきの受け渡しのポイント（大声で呼ぶ、たすきをもらったらまず走る 他）など、駅伝ならではの練習を行いました。



そして、当日、体調不良のため選手が数名欠席したことにより、オーダーの多少の変更がありました。子どもたちは、自分たちのもっている力を出し切り、全力でたすきをつなぐ姿を見られました。チームが・自分が、どのような位置（順番）についても決して気を緩めず、あきらめず、とにかく次の人につなぎを渡す姿、教わったたすきの受け渡しのポイントをそのとおり実直にやりきっている姿（特に、たすきを受け取った後はまず全力で走ること）に私は感動しました。

また、応援の声もしっかりと走者に届いていました。苦しいときほど応援の声が力になることも教わっていましたことです。人数は他校に負けますが、声の大きさでは負けないほど全力の応援でした。

出場した3チーム、そして、駅伝の部で出場の機会がなかった児童によるエンジョイランニングで、仲間のためにも、自分のためにも、最後まで走りきったこと、そのような本校の子どもたちを、私は誇りに思います。感動をありがとうございます。(仁平博幸)



(エピソード「ある日の放課後に」)

この駅伝大会を次週にひかえた24日の放課後、何人かの子どもたちが、校庭の駅伝練習コースを走っていました。帰宅後、集まって自分たちで練習をしていたのです。業間の練習で教わった練習方法を忠実に行い、たすきの受け渡しのコツもしっかりと行い、互いに「がんばれ！」と声をかけ合って練習しています。どのような気持ちが、子どもたちをこのような行動をさせるのでしょうか。「絶対勝ちたい！」という強い気持ちかもしれません。「自分の1秒を削ってチームの1秒を生み出すんだ！」という思いかもしれません。もしかすると「納得いく走りをしたい」という願いかもしれません。誰に言われるでもなく、主体的に練習する、その「努力する姿」に、感動を覚えました。



そう、あの日に学んだ「練習は嘘をつかない・練習は裏切らない・練習が全てであること」を実践し、そして彼らは現実のものにしたのです。子どもたちはうれしさと充実感（もしかすると安堵感かも）で一杯になったことと思います。これから的人生で大切なことも学んだのではないかとも感じています。

※次回の学校便りでは、校内持久走記録会（11月15日）についてお伝えします。実は、その中でも類似したお話があります。子どもたちの努力する姿に私は心が打たれる思いとともに幸せを感じています。